

Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局
東部教育局
〒680-0846
鳥取市扇町21番地
東教発 H27. 9. 1 №133
<http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

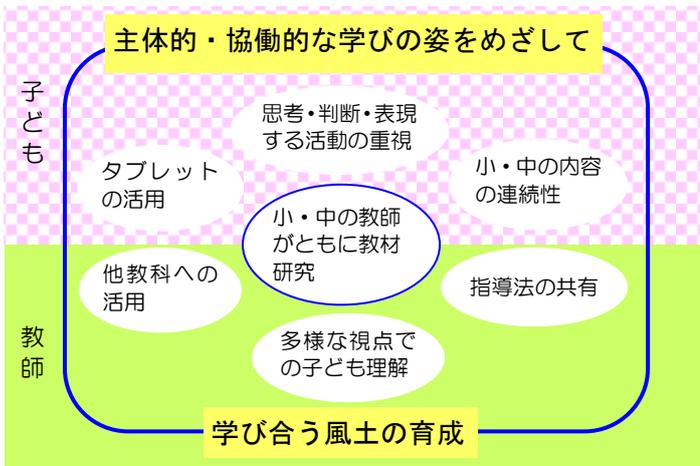
エキスパート教員ステップアップ事業を活用して

本事業は、エキスパート教員の専門性に学ぶとともに、校種を超えて学び合う風土を築くことにより互いの授業力向上をめざしています。

岩美町では、本事業を活用して中学校理科のエキスパート教員である岩崎有朋教諭（岩美中）が町内3小学校へ出かけ、小学校教諭とのチームティーチングによる理科の授業を年間約55時間行っています。



【小学校でのT.Tによる理科の授業】



机の真ん中に入って撮って見たらどう？



これなら、ほくが地球になって、月の写真を撮れるよ

【机の配置を相談しながら、月の見え方を撮影】

ほくが時間を計るよ。



準備はいい？

【タブレットを活用してふりこの実験】

わからないことをみんなで乗り越えていく楽しさを授業の中で実感する。そんな場面を小学校から実現し中学校へつないでいくことは、学び方や前向きな学習態度の育成にもつながります。校種を超えた授業研究を通して、多様な視点から子どもの理解を深めるとともに教師のチャレンジ意欲を後押ししていきます。教師の変容は、各教科等における子どもの主体的・協働的な学びにつながっているのです。

深め合う話合い

局長 杉本 仁詞

20年程前、道徳教育の県外研修で6年生の授業を参観し、刺激を受けた。担任教師が資料の範読後、子どもたちに「どの場面を話し合いたいですか。その理由も教えてください。」と投げかけた。子どもたちはいくつかの場面を挙げるのだが、その中には中心発問となる場面も含まれていて、理由も核心を突いていた。そして、中心発問から話合いがなされていったのである。全体、グループ、また全体と展開されていく中で、しっかりと話合いが深まっていった。子どもたちは道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深めていた。子どもたちの道徳的実践力が、しっかりと高まっていくのを感じることができた。

それから私もこの授業をモデルに、中心発問で通す「深め合う話合い」をめざし、授業改善を図っていったが、試行錯誤の日々であった。授業をする度にこの教師の力量の高さを思い知らされた。

日々の授業づくりは格闘の連続だと思うが、私たち教師は、子どもたちの「深め合う話合い」をこだわって求めていきたい。授業のねらいに即した「深め合う話合い」をさせることのできる教師は、力量が高い。そして、子どもたちの道徳的実践力や学力を向上させることができる。前期の学校訪問で、そんな教師に出会った。素晴らしい授業であった。

これから、各学校で授業研究会が活発になされると思う。「深め合う話合い」に焦点を当ててみたい。事後研究会も、はじめからそこにしぼって協議してはどうか。子どもの反応をもとに、本時の板書や発問などを具体的に練り直すことを通して、「深め合う話合い」のある授業づくりをめざしたいものである。

東部地区第1回スクールカウンセラー研修会 ～LD等専門員と合同開催～

スクールカウンセラー（SC）への相談で、発達に関する内容が増える傾向が見られるのを受けて、LD等専門員との合同研修会を開催しました。「心の専門家」と言われるSCと「発達に係る専門家」であるLD等専門員がお互いの活動について理解を深めるとともに、発達障がいと考えられる不登校生徒の事例検討を通してそれぞれの視点の違いや共通点などを共有し、校内でより効果的な支援活動ができるようにその資質向上をめざしました。

LD等専門員

- ・見通しが持てなくて困っているのでは
- ・人の気持ちをうまくみ取るのが苦手なのかな
- ・学習面の実態を把握していきましょう

※個人の「特性」からの視点

同じケースについて見立てや対応を検討



スクールカウンセラー

- ・対人関係に課題がありそうですね
- ・幼少期の様子や親子関係も含めて見立てをすることが大切では
- ・保護者相談をしていきましょう

※生育歴等も含め「育ち」の視点

【連携のアイデア】

- LD等専門員は学校に対して具体的な支援策を助言し、SCは子どもに対してそれを実施できる心の状況かどうかを見立てる。
- 児童生徒の個人ファイルを作成・活用し、教員・SC・LD等専門員が情報を共有していくとともに多面的に支援していく。

学校では現在、SC、LD等専門員、スクールソーシャルワーカーなどの様々な専門家の力を取り入れて問題に対応していくことが求められています。それぞれの専門性や役割をしっかりと理解した上で、複数の専門家をより効果的に活用することをめざして、学校としてどのように連携させていくのかというビジョンを明確に持って教育相談体制を充実させていきましょう。

学級という集団の中で個を育てる

どの学級にも支援を要する児童生徒が在籍しており、各学校では、よりよい支援の検討がなされています。「支援」を2つの種類に分けてみました。皆さんの学級では、どのような支援を大切にしていますか。



〈例えば、Aさんの支援を考えてみましょう〉

Aさんは、繰り上がり、繰り下がりのある計算が苦手です。指を使って計算したり、計算間違いが多かったりします。あなたならどのような支援をしますか。

個にアプローチする支援

〈まず、こんなことをしてみましょう〉

- 指や数直線カードを使って数えてもよいことを伝え、安心感を持たせる。
- 問題数を減らし、抵抗感をなくす。
- 色を使うなど、視覚的支援をする。
- できている問題をほめ、自信を持たせる。

こんな風にしてみたらどう？



〈つまりきの背景を推測してみましょう〉

- 繰り上がりの数を忘れている場合
背景：ワーキングメモリが弱いのかも・・・
支援：繰り上がりの数を必ずメモさせる。
- 筆算で、位がずれる場合
背景：視覚認知が弱いのかも・・・
支援：位が揃うよう、ノートに補助線を引く。

慌てなくても大丈夫だよ。

〈認め合い、支え合う、安心できる学級をつくりましょう〉

- 友だちのことを思い声援を送ることができ、また、一緒に伸びようとすることができる仲間である。
- 人はそれぞれ考え方や取り組み方に違いがある。その違いを認め合うことができる仲間である。

みんなが、それぞれいろいろなことにがんばっているよね。



ほくもがんばるよ。

集団にアプローチする支援

すてきだね。

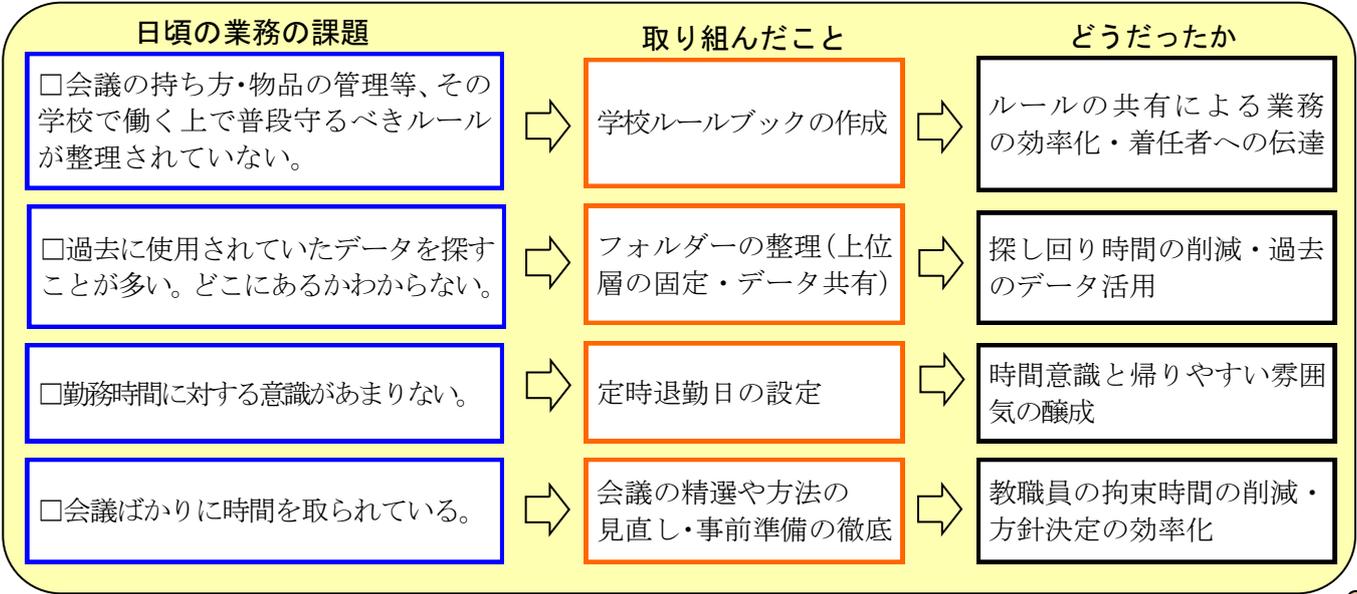


教師が行う個への支援は、学級の友だちとのよりよい関係性の中で行うことによって、より効果があがります。どの子どもにとっても安心でき、成長し合える学級づくりについて、今一度考えてみましょう。

学事コーナー

学校カイゼン活動の取組

学校カイゼン活動とは「教職員が子どもと向き合う時間」の確保に向けて、多忙感解消の観点から学校運営等における課題について各学校で明らかにし、話し合い、改善の取組をひとつずつ実践していく活動のことです。鳥取県教育委員会では、平成26年度に倉吉西高等学校をモデル校として、コンサルタントの指導を受けながら学校における業務改善の取組(学校カイゼン活動)を実践し、5月に手引きを作成しました(H Pで公開)。手引きに掲載されている改善の取組例を抜粋して紹介します。



丹比小学校では、この夏季休業中にコンサルタントを県外から招き、「学校現場における多忙感解消のためのポイント」について研修を行いました。教職員全員が日頃の業務や環境面の課題を抽出し、改善策を熱心に話し合い「学校カイゼン活動」に取り組んでいました。

教職員は、教育活動を充実させていくことが求められている一方で、学校教育に寄せられる期待や要求の多様化等から多くの業務を抱え、多忙感を抱く現状があります。そのような中で、教育活動を充実させるためにも業務改善に学校全体で取り組み、教職員が持つ“多忙感”をできるだけ軽減し、子どもとしっかり向き合える時間を生み出していくことが大切です。

教職員の飲酒運転について

7月23日に、県内の小学校教諭が、飲酒運転で衝突事故を起こしたとして、警察に逮捕されるという事件が発生しました。新聞では、この教諭は同日午前2時35分頃、自家用車を酒気を帯びた状態で運転し、対向車と正面衝突し、運転していた男性に重傷を負わせたと報道されていました。7月22日に行われた、同校の教職員による懇親会に参加した後に起きた事件でした。

県教育委員会として、これまでも飲酒運転は絶対にいけないと、サービスの徹底を図ってきましたが、飲酒運転で人身事故を起こすという事件が発生したことは誠に遺憾です。一部の教職員の不適切な行為によって、県民に対して多大な迷惑をかけ、本県教育への信頼感が大きく損なわれる、極めて憂慮すべき事態です。

夏休み明けにおいても各学校・地域において、各種スポーツ大会の後の懇親会等、飲酒する機会があると思います。

飲酒運転を絶対にしないために、懇親会当日・翌日の自動車の利用、代行・タクシーの利用について、必ず相互に確認していきたいものです。

P 6～9に「飲酒運転」の事例が掲載してあります。



毎年度(H22～26)教職員が飲酒運転で処分されています。